

自己免疫性溶血性貧血

患者様情報

来院されるまでの症状

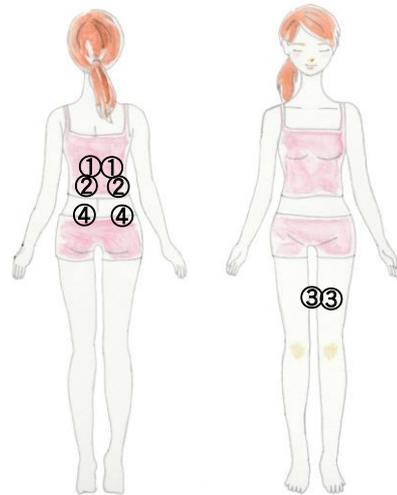
- ・21歳のときに発症しました。きっかけは、なかなかあざが治らず病院へ行ったところ、血液検査で赤血球の数値が異常ということでした。
- ・薬を一定期間服用して症状は改善しました。
- ・30歳になると、貧血症状が出始め、診察の結果、同じ薬を服用し始めています。
- ・今回、少しでも体質を変えて貧血症状を改善したいと思い来院されたということです。

患者様	30代 女性
初診	2014年 10月
既往症	肩こり 足のむくみ 短期間での体重増加 腰痛
他の症状	特発性血小板減少性紫斑病

四診と経過

■ 診療（診断と施術）

- ・からだ全体が浮腫んでいて、冷えもあり、筋肉が硬くなっていました。
- ・冷えと浮腫みに有効なツボを中心に鍼と灸を施術し、からだ全体の気血の流れを改善しました。
- ・肩から腰にかけて硬く凝りやすいので、定期的にゆるめていく方向で施術方針をたてました。



■ 初診後の経過

- ・施術するに伴って顔色も良くなり、硬かった筋肉も徐々に柔らかくなってきました。
- ・特に、気になっていた、だるさや息切れも改善の兆しが見えてきました。
- ・血液検査でも安定した数値を保っているようです。
- ・鍼灸の効果と喜んでくださり、今も定期的に施術を受けています。

使用した主要なツボ

- ①腎兪(ジンユ) ②志室(シシツ)
③血海(ケツカイ) ④会陽(エヨウ)

■ ひとこと添えさせていただきます

- ・自己免疫性溶血性貧血は、日本人の数千人が罹患している免疫異常の病です。自身の免疫の異常のため赤血球を攻撃する抗体が作られてしまうことにより、本来の寿命よりも早く赤血球が破壊されてしまいます。そのため、赤血球の産生が壊される量に追いつかずに貧血となります。ステロイド剤の投与が一般的な治療とされています。
- ・この病気は、動悸、息切れ、めまい、だるさ、頭痛といった貧血症状が特徴です。
- ・免疫異常による病は、免疫力のリセットか調節が必要です。鍼灸は免疫力の調整を目指します。即効性は期待できませんが、鍼灸によって体質の改善を図り、免疫バランスの正常化を図る道も選択肢として考えられます。